

The Emerging Market Weekly

国際為替部

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

齋藤 周

03-3242-7065

amane.saito@mizuho-bk.co.jp

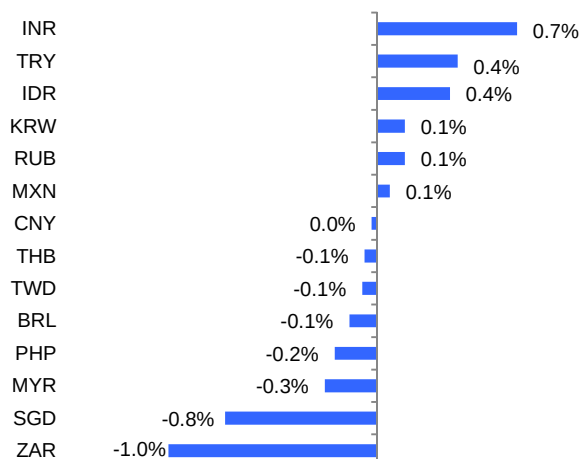
今週のエマージングマーケット

今週の新興国通貨はまちまち

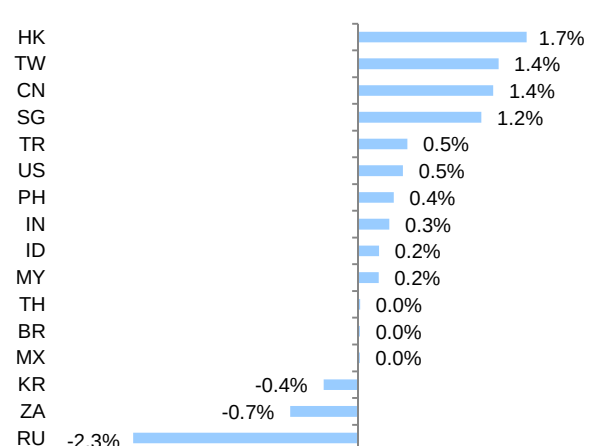
今週の新興国通貨はまちまちな展開。先週末に発表された米1月雇用統計では非農業部門雇用者数が市場予想を上回って増加したが、平均時給の伸びが市場予想を下回ったことを背景にドルは小幅に下落し、新興国通貨は上昇した。6日、フランス大統領選挙における共和党（中道右派政党）の統一候補であるフィヨン氏の金銭スキャンダルが取り沙汰され、国民戦線（FN、極右政党）党首のルペン氏当選への懸念が強まった。これを受けてリスクオフムードが広がり、それまで堅調に推移していた新興国通貨は反落した。7日、欧州各国で年内に予定されている選挙への不透明感の高まりに加え、中国1月外貨準備残高が2012年2月以降初めて3兆ドルを割り込んだことも重石となり、新興国通貨は下押しされた。9日、トランプ米大統領が航空会社幹部との会合で減税を約束したことを背景にドルは上昇したが、新興国通貨の反応は限定的だった。

個別通貨で見ると、内閣改造での財務相解任の懸念や、ズマ南アフリカ大統領の年次演説を控えZAR（▲1.0%）は軟化した。SGD（▲0.8%）は週初リスク回避の動きが広がったことを受け下落した。一方、インド準備銀行（RBI、中央銀行）が金融政策決定会合で市場予想に反して政策金利を据え置いたことを受け、INR（+0.7%）は上昇した。（大島由喜）

エマージング通貨騰落率（対ドル）



エマージング株式騰落率



（注）US：米国 S&P500 種指数、CN：中国上海総合指数、HK：香港ハンセン指数、IN：インド SENSEX30 種指数、ID：インドネシアジャカルタ総合指数、KR：韓国総合株価指数、MY：マレーシア FTSE ブルサマレーシア KLCI インデックス、PH：フィリピン総合指数、SG：シンガポール ST 指数、TW：台湾加権指数、TH：タイ SET 指数、RU：ロシア RTS 指数、ZA：南アフリカ FTSE/JSE アフリカ全株指数、TR：トルコイスタンブールナショナル 100 種指数、BR：ブラジルボベスバ指数、MX：メキシコボルサ指数

（資料）ブルームバーグ、みずほ銀行

エマージングマーケット短期見通し

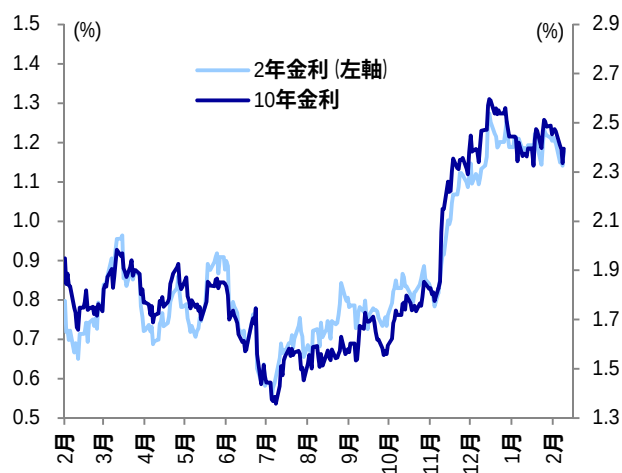
材料難から新興国通貨のボラティリティは低下

来週の新興国通貨は引き続き方向感に欠けると予想するが、リスクはダウンサイドに大きいだろう。昨年 11 月以降、トランプ米大統領の経済政策（トランプノミクス）への期待からドルインデックスは上昇したが、今年 1 月にはその上昇分の多くを調整し、下落した。新興国通貨もこれに合わせて上昇する動きが目立った。しかし、今週は新興国通貨の調整は一服し、先月に比べて新興国通貨のボラティリティは低下傾向にある。なお、これまで材料視されてきたトランプ大統領の発言に関しては、市場の関心が高い財政政策の具体案は 2 月 28 日の議会演説まで出てこないとの見方が広がっている。そのため、足許の相場は材料探しの色合いが強くなっており、来週も基調としては方向感に欠ける展開が予想される。

米 3 月利上げの選択肢を残すため、FRB 高官がタカ派な発言をする可能性

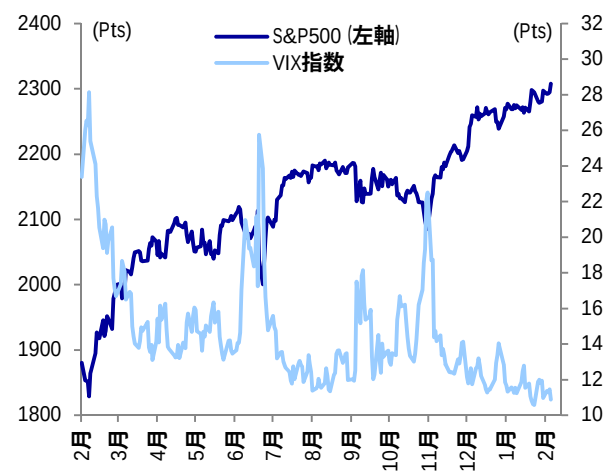
但し、相場を動かす材料として 10 日（金）の日米首脳会談、11 日（土）のフィッシャーFRB 副議長講演、14 日（火）のイエレン FRB 議長講演が挙げられる。日米首脳会談では通貨安誘導を行っていると言指しで批判した日本に対し、トランプ大統領がどのような姿勢を示すかが注目される。日本同様に通貨安誘導との批判を受けかねない KRW、TWD、既に批判を受けた CNY などは、会談で円安が批判されれば対ドルで上昇する可能性が高い。また、フィッシャー副議長とイエレン議長の講演に関してはタカ派的な発言が警戒される。昨年 12 月の FOMC メンバーの政策金利見通し（ドットチャート）での 2017 年における利上げ回数が 3 回である一方、市場の利上げ織り込みは、米 1 月雇用統計で平均時給の伸びが前月比 +0.1%と予想（同+0.3%）を下回ったこともあり、2 回を下回っている。しかし、非農業部門雇用者数は予想を大きく上回っており、両氏がドットチャートと市場織り込みとの差を調整するためにタカ派的な発言をする可能性はある。内容によっては短期的なドル買い、新興国通貨安が見込まれ、週前半は新興国通貨の急変動に備えた姿勢で臨みたい。（齋藤周）

図表 1: 米国債利回りの推移 (過去 1 年間)



(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 米株と VIX 指数の推移 (過去 1 年間)



(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

インドネシア：金融政策決定会合プレビュー

インフレが加速する中、政策金利は据え置きか

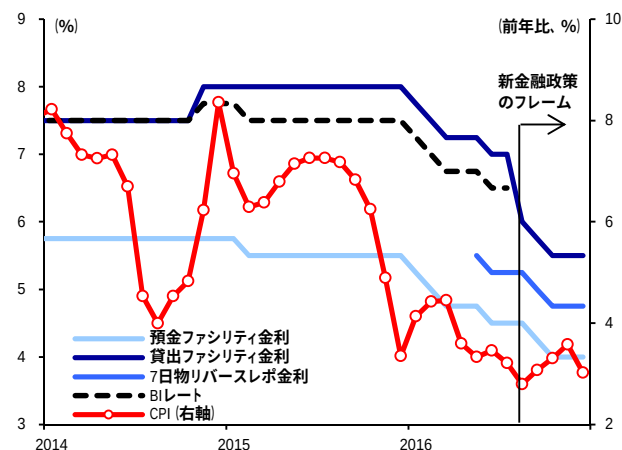
16日（木）に開催されるインドネシア中銀（BI）の金融政策決定会合では政策金利の7日物リバースレポレートが4.75%に据え置かれると予想する。前回会合（1月19日）の声明文では、2017年のリスクとして米国と中国における政策動向を指摘し、特にトランプ大統領の政策を見極める姿勢が示された。また、国内のインフレ率に影響する原油価格の上昇を新たなリスクとして挙げ、政策金利を据え置いた。1月31日にアグング BI 経済金融政策担当専務理事は、国内ではインフレ圧力が高まっており、BIに残された緩和余地は限られているとの見解を示している。実際、インドネシア1月消費者物価指数（CPI）は前年比+3.5%と12月（同+3.0%）から加速した。その後、3日には、マルトワルドヨ BI 総裁は、世界的に不透明感が強い中BIは慎重ながらも緩やかな金融スタンスをとると述べたほか、2017年のインフレ率について+4.0%以上に加速するとの見解を示している。斯かる状況下、BIは今回の会合では政策金利を据え置くと予想する。（大島由喜）

インドネシア：10～12月期 GDP は小幅に減速

政府最終消費支出が成長率を押し下げ

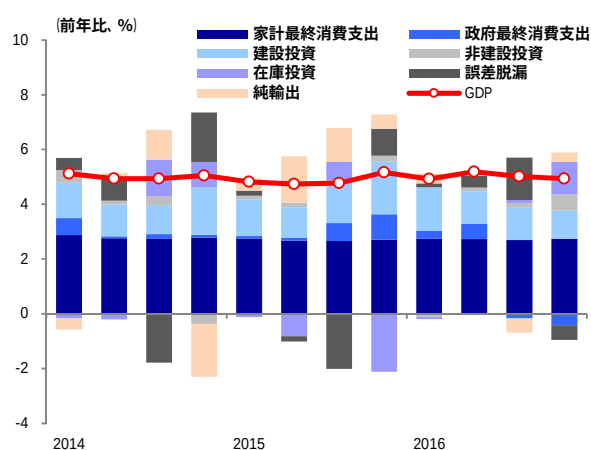
6日に発表されたインドネシア10～12月期GDPは前年比+4.9%と7～9月期（同+5.0%）から僅かに減速した。内訳を見ると、各種投資を含む総固定資本形成（7～9月期：同+4.2%→10～12月期：同+4.8%）が加速し、財・サービス輸出（7～9月期：同▲7.1%→10～12月期：同+4.2%）はマイナスからプラスに転じている。また、家計最終消費支出（7～9月期：同+5.0%→10～12月：同+5.0%）は横ばいを維持した。一方、政府最終消費支出（7～9月期：同▲2.9%→10～12月期：同▲4.0%）がマイナス幅を拡大したことが、成長率押し下げの主因となっている。しかし、先行きの景気については堅調な内需や、実行予定の政府のインフラ投資計画を背景に緩やかな加速が見込まれる。（大島由喜）

図表3：インドネシア 政策金利と消費者物価指数（CPI）



（資料）ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表4：インドネシア 実質 GDP 成長率



（資料）CEIC、みずほ銀行

インドネシア：ジャカルタ州知事選挙は接戦に

政権与党が支持するバスキ候補が勝利するかが焦点

15日（水）に投票が予定されるジャカルタ特別州の知事選挙では、接戦が見込まれており、どの候補者も得票数が過半とならずに決選投票にもつれ込む可能性が高い（開票結果の発表は3月上旬）。選挙には、現職で政権与党の闘争民主党が支援するバスキ氏、前教育・文化相のアニエス氏、元陸軍高官のアグス氏の3名が立候補している。バスキ候補は当初は再選確実と見られていたが、宗教冒瀆罪で起訴されたため一時的に支持率が低下した。その後は1月13日と27日の公開討論会を経て支持を取り戻し、足許の支持率は40%と他の候補を上回っている。同氏の政策内容が市民の支持を集めている模様だ。しかし、アニエス候補（30.3%）やアグス候補（21.8%）との差は小さく、調査によっては支持率が逆転している。こうした接戦の背景には、バスキ候補が裁判中であることや、アニエス候補の背後には最大野党グリンドラ党のプラヴォ党首、アグス候補には父親であるユドヨノ前大統領が控えていることもあるのだろう。どの候補者も得票数が過半とならなかった場合、勝敗は上位2名による4月の決選投票に持ち越される予定だ。なお、現職のジョコ大統領が前ジャカルタ州知事であったことから、今回の選挙を2019年の大統領選の前哨戦と捕らえる向きも多い。これまで安定政権による国内インフラ整備の拡大がIDRのサポート材料となってきたが、与党が支援するバスキ候補が落選するようであれば、政権基盤の軟化とともにIDRが調整を強いられる可能性は高い。（齋藤周）

ロシア：金融政策決定会合レビュー

財務省のドル買い介入への配慮から政策金利据え置きか

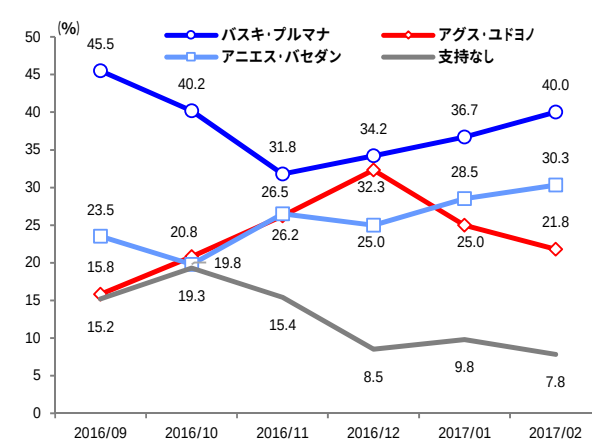
3日に開催されたロシア中銀（CBR）の金融政策決定会合では、政策金利が10.00%に据え置かれた。声明文は前回会合（12月16日）からタカ派化しており、「国内・国外の状況に鑑みて、2017年前半におけるCBRの利下げ余地は縮小した」と昨年9月以降に明示してきた今年前半の利下げに否定

図表5：インドネシア ジャカルタ州知事選挙の立候補者

候補	備考	支持政党
 バスキ・ブルマナ （通称：アホック）	- 現ジャカルタ州知事。構造改革などでジョコ大統領を支えている側面も - ジャカルタ市民に人気。一時は再選が確実視されたが、イスラム教を侮辱する発言で起訴されている	闘争民主党、 ゴルカル党、 ハヌラ党、 ナスデム党
 アニエス・バセダン	元教育文化相。人気が高い	グリンドラ党
 アグス・ユドヨノ	- ユドヨノ前大統領の長男。ハーバード修士。国軍士官学校長 - 低所得者層向けの給付金などを提議し、ポピュリズム色が強い	民主党

（資料）各種報道、みずほ銀行

図表6：インドネシア 立候補者の支持率



（資料）Populi Center、みずほ銀行

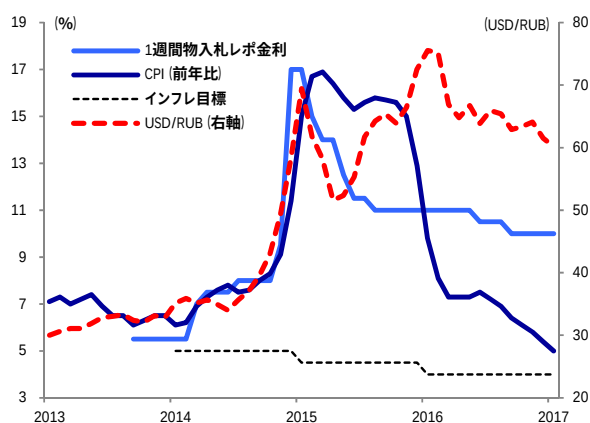
的な見解を示している。なお、インフレ率については CBR の予想通りに推移しているとしたほか、景気が事前の予想を上回っているとの判断を示す中でのタカ派化となった。こうした CBR の変化の背景にはロシア財務省によるドル買いルーブル売り介入への配慮もあったと考えられる。財務省は1月25日に2月以降に外貨購入を開始することを発表し、原油価格が1バレル40ドルを上回っている場合にルーブル売り介入を実施としている。目的として外貨準備の復元もある模様で、CBRの利下げ見送りには過度なルーブル安を回避するとの狙いもあったのだろう。そのため、次回3月24日に予定される金融政策決定会合でも CBR は金融政策を据え置く公算が大きい。(齋藤周)

インド：金融政策決定会合レビュー

市場の緩和予想に反して、政策スタンスを引き締め

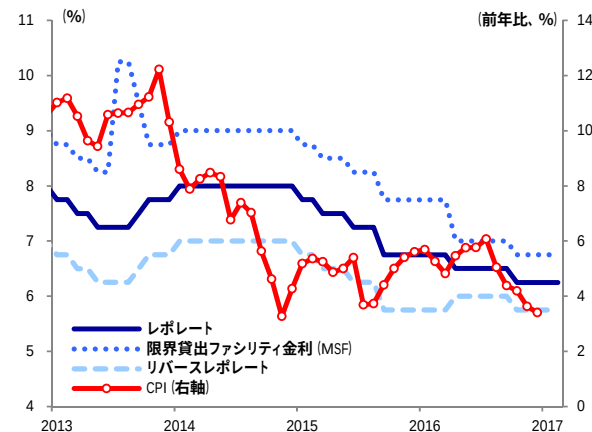
8日に開催されたインド準備銀行(RBI、中央銀行)の金融政策決定会合では、我々の予想通り政策金利であるレポレートが6.25%に据え置かれたほか、金融政策スタンスがこれまでの「緩和的」から「中立」に変更されており、大半が利下げを予想していた市場参加者にとっては驚きの結果となった。声明文では、今年の世界経済は日米をけん引役に緩やかに拡大するとしながらも、米経済政策の不確実性に対する警戒感が示されている。インド経済に関しては、2016年度(2016年4月～2017年3月期)のGVA(産業ごとの付加価値を合計した実質総付加価値)は+6.9%に止まるが、2017年度は高額紙幣廃止の影響が今年3月で収束する見込みであることや政府予算における政府投資拡大などを背景に+7.4%に急回復としている。また、インフレ率については世界的な商品価格の上昇や内需の安定によって徐々に上昇しているとしたほか、昨年決定された公務員給与引き上げによる影響を注視する姿勢を見せている。そうしたインフレ率の加

図表7: ロシア 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料) ブルームバーグ、みずほ銀行

図表8: インド 政策金利と消費者物価指数(CPI)



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

速懸念が RBI の政策スタンス変更につながった模様だ。もっとも、足許では 12 月 CPI は前年比+3.41%と 5 か月連続で減速しており、RBI 目標 (2017 年 3 月に+5%) を下回っている。そのため、RBI が更なる金融引き締めに踏み切る必要性は低いと言え、次回会合 (4 月 5~6 日) においても金融政策は据え置かれる可能性が高いだろう。(齋藤周)

タイ: 金融政策決定会合レビュー

BOT は 14 会合連続で政策金利を据え置き

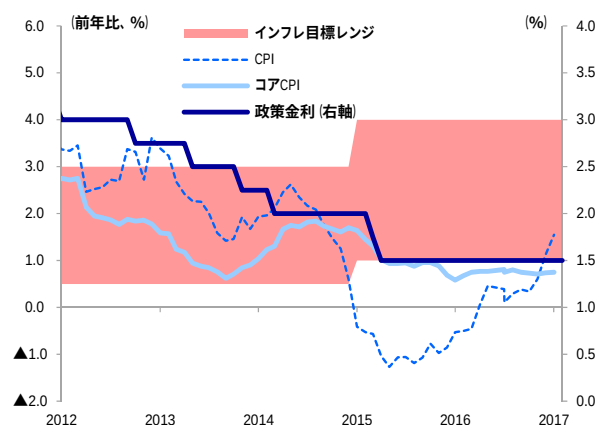
7 日に開催されたタイ中銀 (BOT) の金融政策決定会合は、全会一致で 14 会合連続の政策金利 (1.50%) 据え置きを決定した。声明文では、広範囲での財輸出の回復や見通しより速い観光業の回復を背景にタイ経済は予想より速いペースで回復する見通しであると述べた。また、民間支出と民間投資も緩やかに持ち直しており、政府支出は引き続き経済のけん引役であるとしている。なお、タイ経済の下振れリスクとして、米国の通商政策の見直しや中国の財政悪化懸念、欧州の政治状況などを挙げた。このほか、為替相場について、世界経済への不透明感から THB は主要貿易相手国の通貨に対し、割高になっているとして前々回会合 (11 月 9 日) 以来、2 会合ぶりに THB 高を懸念する文言を記載した。足許のタイ経済指標を見ると、12 月輸出 (通関ベース) は同+6.2%と 11 月 (同+10.2%) から減速したが、高水準を維持している。また、12 月来訪客数は前年比+2.4%と 11 月 (同▲3.7%) から増加しており、タイ経済は堅調に推移している。政府による財政刺激策の効果や追加歳出も予定されているため、今後も景気回復が続くと見られることから、BOT は当面現状の金融政策を維持するだろう。(大島由喜)

メキシコ: 金融政策決定会合レビュー

MXN 安とインフレ上昇を受け 政策金利を 50bp 引き上げ

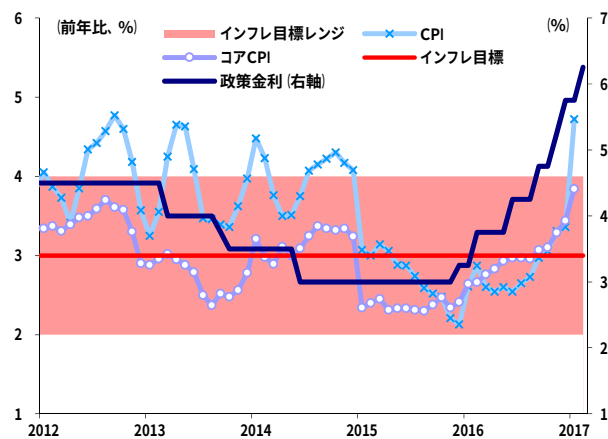
9 日に開催された金融政策決定会合でメキシコ中銀 (BOM) は政策金利を 50bp 引き上げ、6.25%とした。声明文ではトランプノミクスに対しての懸

図表 9: タイ 政策金利と消費者物価指数 (CPI)



(資料) ブルームバーグ、CEIC、みずほ銀行

図表 10: メキシコ 政策金利と消費者物価指数 (CPI)



(資料) CEIC、みずほ銀行

念が示された。為替動向については 1 月に入ってから対ドルで過去最安値を更新したことを挙げ、ここ数週間で落ち着きを見せているが 2016 年 11 月の米大統領選前の水準より MXN 安であると述べている。また、インフレ率に関して、政府のガソリン価格引き上げもある中で、1 月 CPI は前年比 +4.72%に加速し足許では上昇傾向にあるとした。今回の利上げを実施した理由に、MXN 安と、ガソリン価格引き上げによるインフレ加速やインフレ期待上昇の抑制があると述べられた。なお、ガソリン価格引き上げの影響は一時的なものとの見方を示しており、インフレ率はインフレ目標（+2～4%）の上限を上回って推移を続けるが、2017 年末頃にかけて収束し、2018 年には 3%に向けて低下していくとの見解を示した。BOM の利上げを受け、MXN は対ドルで小幅に上昇しているが、依然として米大統領選前からは大幅安となっている。今後も MXN 安が続き、インフレの加速が見られるようであれば、BOM が追加利上げに踏み切る公算は大きい。（大島由喜）

エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
2月6日 (月)	インドネシア	消費者信頼感指数	--	115.3	115.4	--
6日 (月)	インドネシア	GDP(前年比)	5.0%	4.9%	5.0%	5.0%
6日 (月)	中国	Caixin中国PMI(サービス業)	--	53.1	53.4	--
7日 (火)	フィリピン	消費者物価指数(前年比)	2.8%	2.7%	2.6%	--
7日 (火)	台湾	貿易収支	\$3.67b	\$3.5b	\$4.86b	--
8日 (水)	台湾	消費者物価指数(前年比)	2.0%	2.3%	1.7%	--
8日 (水)	マレーシア	貿易収支MYR	9.2b	8.72b	9.03b	--
8日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	1.50%	1.50%	1.50%	--
8日 (水)	インド	RBIレート	6.00%	6.25%	6.25%	--
9日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	3.00%	3.00%	3.00%	--
10日 (金)	フィリピン	貿易収支	-\$2200m	--	-\$2566m	--
10日 (金)	インド	鉱工業生産(前年比)	1.20%	--	5.70%	--
10日 (金)	中国	貿易収支	\$48.50b	--	\$40.82b	\$40.71b
10日 (金)	インドネシア	国際収支：経常収支	-\$3000m	--	-\$4493m	--
10～15日	中国	M2(前年比)	11.30%	--	11.30%	--
10～15日	中国	新規貸出(人民元)	2440.0b	--	1040.0b	--
10～15日	インド	貿易収支	-\$10025.5	--	-\$10369.0	--
10～18日	中国	海外直接投資	1.40%	--	5.70%	--
13日 (月)	インド	消費者物価指数(前年比)	3.2%	--	3.4%	--
14日 (火)	中国	消費者物価指数(前年比)	2.4%	--	2.1%	--
14日 (火)	インド	卸売物価(前年比)	4.3%	--	3.4%	--
15日 (水)	台湾	GDP(前年比)	2.6%	--	2.6%	--
15日 (水)	フィリピン	海外送金(前年比)	--	--	18.5%	--
15日 (水)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$992m	--
16日 (木)	マレーシア	国際収支：経常収支MYR	--	--	6.0b	--
16日 (木)	マレーシア	GDP(前年比)	--	--	4.3%	--
16日 (木)	インドネシア	インド銀行預金ファシリティレート	--	--	4.75%	--
17日 (金)	シンガポール	非石油地場輸出(前年比)	3.3%	--	9.4%	--
17～24日	シンガポール	GDP(前年比)	--	--	1.8%	--
中東欧・アフリカ						
2月3日 (金)	トルコ	消費者物価指数(前年比)	8.6%	9.2%	8.5%	--
3日 (金)	ロシア	主要金利	10.00%	10.00%	10.00%	--
7日 (火)	ロシア	消費者物価指数(前年比)	5.1%	5.0%	5.4%	--
8日 (水)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	2.3%	1.3%	2.7%	2.8%
9日 (木)	南アフリカ	鉱物生産量(前年比)	-3.8%	-1.9%	-4.2%	-4.5%
10日 (金)	ロシア	貿易収支	9.5b	--	9.1b	--
14日 (火)	トルコ	経常収支	--	--	-2.27b	--
15日 (水)	南アフリカ	消費者物価指数(前年比)	--	--	6.8%	--
15～16日	ロシア	鉱工業生産(前年比)	2.7%	--	3.2%	--
ラテンアメリカ						
2月3日 (金)	メキシコ	消費者信頼感指数	83.5	68.5	85.7	--
8日 (水)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	5.4%	5.4%	6.3%	--
9日 (木)	メキシコ	消費者物価指数(前年比)	4.7%	4.7%	3.4%	--
9日 (木)	メキシコ	オーバーナイトレート	6.25%	6.25%	5.75%	--
14日 (火)	ブラジル	広義小売売上高(前月比)	--	--	0.6%	--
17日 (木)	ブラジル	経常収支	--	--	-\$5881m	--

(注) 2017年2月10日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。

(資料) ブルームバーグ

エマージング通貨相場見通し

		2017年 1月(実績)	SPOT	2017年 3月	6月	9月	12月	2018年 3月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.8315 ~ 6.9640	6.8691	6.90	7.00	7.07	7.17	7.17
香港ドル	(HKD)	7.7531 ~ 7.7598	7.7582	7.76	7.76	7.76	7.76	7.76
インドルピー	(INR)	67.753 ~ 68.388	66.851	68.3	68.8	66.3	65.5	65.0
インドネシアルピア	(IDR)	13236 ~ 13496	13295	13500	13600	13300	13000	12800
韓国ウォン	(KRW)	1155.70 ~ 1211.78	1146.13	1180	1200	1180	1160	1140
マレーシアリング	(MYR)	4.4250 ~ 4.5002	4.4395	4.48	4.45	4.35	4.22	4.10
フィリピンペソ	(PHP)	49.360 ~ 50.026	49.907	50.2	49.8	48.8	48.0	47.5
シンガポールドル	(SGD)	1.4069 ~ 1.4547	1.4207	1.43	1.45	1.42	1.40	1.39
台湾ドル	(TWD)	31.199 ~ 32.447	31.043	32.00	32.20	31.90	31.60	31.30
タイバーツ	(THB)	35.05 ~ 36.01	35.05	35.6	35.3	35.0	34.9	34.8
ベトナムドン	(VND)	22528 ~ 22768	22670	22680	22750	22650	22500	22450
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	58.9611 ~ 61.7190	58.9179	62.00	62.00	60.00	58.00	58.00
南アフリカランド	(ZAR)	13.1981 ~ 13.9810	13.3854	13.80	14.20	14.50	14.00	13.50
トルコリラ	(TRY)	3.5143 ~ 3.9415	3.6885	3.60	3.60	3.70	3.80	3.90
ラテンアメリカ								
ブラジルリアル	(BRL)	3.1025 ~ 3.2912	3.1273	3.24	3.30	3.35	3.40	3.40
メキシコペソ	(MXN)	20.5836 ~ 22.0385	20.3479	22.00	21.00	20.50	20.20	20.00
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	16.286 ~ 17.031	16.458	16.09	16.00	15.42	14.64	14.50
香港ドル	(HKD)	14.449 ~ 15.291	14.604	14.30	14.43	14.05	13.53	13.40
インドルピー	(INR)	1.651 ~ 1.735	1.695	1.63	1.63	1.64	1.60	1.60
インドネシアルピア	(100IDR)	0.839 ~ 0.880	0.852	0.822	0.824	0.820	0.808	0.813
韓国ウォン	(100KRW)	9.599 ~ 9.850	9.845	9.41	9.33	9.24	9.05	9.12
マレーシアリング	(MYR)	25.287 ~ 26.274	25.292	24.78	25.17	25.06	24.88	25.37
フィリピンペソ	(PHP)	2.261 ~ 2.377	2.250	2.21	2.25	2.23	2.19	2.19
シンガポールドル	(SGD)	79.38 ~ 81.66	79.75	77.62	77.24	76.76	75.00	74.82
台湾ドル	(TWD)	3.570 ~ 3.676	3.650	3.47	3.48	3.42	3.32	3.32
タイバーツ	(THB)	3.191 ~ 3.300	3.233	3.12	3.17	3.11	3.01	2.99
ベトナムドン	(100VND)	0.4942 ~ 0.5213	0.5005	0.49	0.49	0.48	0.47	0.46
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.860 ~ 1.979	1.923	1.79	1.81	1.82	1.81	1.79
南アフリカランド	(ZAR)	8.322 ~ 8.647	8.465	8.04	7.89	7.52	7.50	7.70
トルコリラ	(TRY)	29.076 ~ 33.476	30.701	30.83	31.11	29.46	27.63	26.67
ラテンアメリカ								
ブラジルリアル	(BRL)	34.866 ~ 36.678	36.231	34.26	33.94	32.54	30.88	30.59
メキシコペソ	(MXN)	5.164 ~ 5.717	5.568	5.05	5.33	5.32	5.20	5.20

(注) 1. 実績の欄は2017年1月31日まで。SPOTは2月10日の8時00分頃。2. 実績値はブルームバーグの値。3. 予想の欄は四半期末の予想。4. 見通しの値は『Emerging Market Monthly(2月2日発行)』及び『中期為替相場見通し(2月1日発行)』に基づく
(資料) みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。